

じっくり心をこめて

スロー フード 58



炊き込み山菜おこわと黄花湯

おこわや赤飯はお祝いごとや行事のたびに作られてきました。たくさん作ってご近所へも分けていたようです。秋から冬にかけては、貯蔵野菜や塩漬けた山菜を使って作り、年中食べられるようになっていました。

黄花湯は中国のスープで、卵を黄色い花に見立てたことから名前がついています。しょうが入り、寒い日に体が温まる簡単スープです。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料

炊き込み山菜おこわ（4人分）
 ・もち米 1合 ・うるち米 1合
 ・水（しいたけの戻し汁も） 2カップ ・わらび（水煮） 40g
 ・姫たけ（水煮） 40g ・薄揚げ 1/2枚 ・干しいたけ 2枚
 ・ニンジン 20g ・こんにゃく 30g ・炒りごま 小さじ1
 （調味料）
 ・塩 小さじ2/3 ・酒 大さじ1 ・砂糖 大さじ2/3
 ・しょう油 大さじ1

黄花湯（4人分）
 ・卵 2個 ・ねぎ 30g ・しょうが 少々
 ・水 640ml ・鶏ガラスープの素 4g ・塩 小さじ1/2強
 ・しょう油 小さじ1 ・酒 小さじ2 ・水溶き片栗粉 少々

作り方

《炊き込み山菜おこわ》

- 1 干しいたけは水に浸して戻し、スライスする。
- 2 米は洗って炊飯器に入れ、水（しいたけの戻し汁も加える）を加えて30分以上浸す。
- 3 わらびは3cmの長さに切り、姫たけはななめ切りにする。
- 4 薄揚げは熱湯をかけて油抜きをし、たて半分に切って5mmの短冊切りにする。
- 5 ニンジンは皮をむいて3cm×5mmの短冊に切る。こんにゃくは下ゆでし、他の材料と大きさをそろえて切る。
- 6 2に調味料と3～5の材料を入れて普通に炊く。炊き上がった炒りごまをふりかけ、底から混ぜる。

《黄花湯》

- 1 しょうがはすりおろし、ねぎは小口切りにする。卵は割りほくしておく。
- 2 鍋に水と鶏ガラスープの素を入れて火にかけ、沸騰したらねぎ、しょうがを加えて塩、しょう油、酒で味を付け、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- 3 割りほくした卵を流し入れたら完成。

せきかわ文芸

川柳

関川村を広めてくれた佐渡のトキ定着を

松田 栄一

願ひ天与のトキ迎え

（下 関）

かたばみ短歌会作品

雨降れば雨降り仕事と豆選ぶ暇なき日々秋

は深まる

須貝 恵美

庭の木を逆さに写す水溜り紅葉一枚落ちて華

やく

小池 啓子

葦茂る休耕田を住処にし音にするとき鷺の幼

鳥

山口 藤枝

操らるる文弥人形を生きるかに語る大夫の声

に聞きいる

渡辺千恵子





地域医療に貢献した富樫清彌さんは大正十一年一月二十日、関川村土沢に富樫栄八の長男として生まれた。旧制村上中学校を経て昭和十八年九月二十日岩

近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

富樫清彌

手医学専門学校を卒業。直ちに新発田歩兵第一五八連隊に召集され、歩兵八六連隊要員として中国浙江省から南方戦線へ軍医として従軍。同二十年八月タイのハジャイで終戦を迎え、シンガポールで抑留生活の後、同二十一年八月二十日に復員した。一年間厚生連村上病院に勤務した後、富樫医院に勤務し父と共に地域医療に従事した。敗戦直後であり住民の生活は貧しく貧血や栄養失調による疾病患者が多く結核や赤痢等の罹患率も高かった。住民の衛生知識も低く、昼夜を分かたず住民の診療に東奔西走する毎日であった。女川郷は鉄道がなく冬期間は隣村と遮断され孤立する集落が多かった。特に田麦千刈地区は積雪が三メートルを超すことが稀ではなかった。清彌さんは父に代わって往診を担当。医院から片道十四キロメートルもあるため二日がかりの往診となった。往診時には村中の患者が押し寄せ、昼夜を分かたず診療にあたった。当時は電気がなく口ウソクやランプの灯で診療にあたらざるを得なかった。また昭和四十六年十二月から田麦千刈地区へき地冬期巡回診療所担当医師として平成六年十二月三十一日までの二十三年の長きにわたって月二回村一番の辺地の診療に従事し、地区住民の診療と健康づくりに献身した。

昭和三十四年八月村立女川小学校、同女川中学校、同土沢小学校の校医として、また昭和四十四年十月大島保育園、同四十六年十一月女川保育園の嘱託医として保育園児、児童生徒ならびに教職員の健康診断や各種の予防接種の実施により疾病予防に尽力すると共に、健康管理の充実と衛生環境の整備に積極的に指導助言を与え、次代を担う子どもたちの健全な育成に大きく貢献した。昭和三十三年九月父栄八が第二代関川村長に就任したため、昭和三十四年四月一日から富樫医院の院長となり、昭和六十一年十一月から平成六年十二月三十一日まで医療法人社団富樫医院の理事長をつとめた。なお昭和四十二年四月一日から十四年間村上岩船郡医師会理事、昭和六十二年四月一日から四年間村上市岩船郡医師会議長の要職を務め医師会の基礎づくりに多大な貢献をした。昭和五十二年十一月十四日、へき地永年勤務功労により新潟県知事表彰を受章。平成八年十一月三日、勲五等に叙せられ雙光旭日章を授与された。

・富樫家の系図
先祖
清之丞…清八 秀八 栄八
清彌 清朋

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

小春日や上棟式の槌の音

渡辺しづい

走り根も苔むす庭や時雨傘

五十嵐貞子

傘寿など友と語りて長き夜

渋谷 くに

軒先の鮭を揺らして旋風（まわ）

南 セツ

舗装路の工事始まる初冬かな

青木 慶一

一茶忌や長寿は寂し隠居部屋

佐藤 ノブ

せきかわ川柳会作品「カード」「安心」「雑詠」

あれこれとカード使って身の破滅

渡辺しづい

この地に住み山並仰ぎ安心す

高橋 イツ

買物がつい多くなるカード買い

南 セツ

同居して安堵と不安共に住み

佐藤 ノブ

わが村にトキの飛来に福を呼ぶ

本間 イミ

反省も夢も書き替え丑へ越す

平田 千恵